



高輪だより

令和4年度 7月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

わくわく ぽかぽか
みんなえがおの
たかなわようちえん

高輪子どもまつりを終えて

園長 柿沼 敦子

例年より早い梅雨明けに園庭のトマトの実が急いで赤くなりました。

さて、先週行われた高輪子どもまつりは大盛況でした。3年ぶりに地域の未就園児親子を招くことができ、賑わいが戻ったことに大きな喜びを感じました。子どもたちは、お店屋さんとしてお客さんに、遊び方を説明したり、小さな子に優しく接したりして大活躍しました。また、自分たちがお客さんとして遊んだ際は最高の笑顔で楽しむ姿がありました。お祭り委員さんを中心に保護者の皆様がお祭りの雰囲気をもっと盛り上げてくださったおかげで、子どもたちに笑顔が溢れました。深く感謝申し上げます。

この高輪子どもまつりへの取組では、年長は、グループの友達とお店作りの相談をして取り組みました。幼稚園では一番の年上の学年ですが、どんなお店にするかをグループの友達と相談して決めようとしても一人ひとり、自分がやりたいことを主張します(自分の意見を主張できることは素晴らしいこと!)ので、なかなか相談がまとまりません。しかし、先にある楽しいまつりを思い浮かべながら“折り合いをつける”、ことや“一緒につくっていく”ことを学んでいきます。徐々にできあがってくるとその喜びは一人だけのものではなく、みんなのものになっていきます。子どもまつり当日、たくさんの人から喜ばれ、自分たちの活躍に満足感を抱き、一気に充実感を高め自信となりました。折り合いをつけながら取り組んできたことや喜び合ったことすべてが子どもたちの力となったことでしょう。

年中は、先生と一緒に普段の遊びで楽しんできたことからどんなお店にするかを決めて、学級のみなどお店の準備を進めました。そのお店にお客さんがたくさん来てくれたことでうれしさや楽しさで心がいっぱいになり、自信を高めたことでしょう。

年少は、お祭りに期待をもち4、5歳児がお祭りの準備をしている様子を見てきました。当日、おうちの方とお祭りを楽しみながら年長さんや年中さんのお祭りで活躍する姿や、お店で出合った作品などに憧れの気持ちをもったことでしょう。

高輪子どもまつりでは、各学年の子どもたちが大きく成長しました。さて、夏本番となりました。熱中症対策を工夫しながら、水と関わる遊びや運動遊びを楽しむ7月にしていきたいと思います。

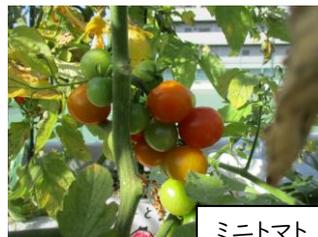
高輪子どもまつり



たかなわんだふる



子どもたちが育てている夏の野菜が、日差しを浴びて大きく成長しています。



ミニトマト



ポップコーン



年長児が収穫したジャガイモ



バケツ田んぼ イネ



サツマイモ